

入試年度	2026 年度	入試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2026 年 2 月 18 日
課程	博士前期課程	研究科	国際日本学研究科	専攻・コース	国際日本学専攻 ポップカルチャー研究領域
入試方式	社会人Ⅰ種入学試験		試験科目	小論文	

「出題の意図」および「解答」または「解答例」

I. 論述問題

【出題の意図】

2 題のうち 1 題を選んで、マンガ・アニメ・ゲーム・特撮等の歴史を、特定のテーマや観点に沿って整理して述べるができるかを問うている。多様な回答が考えられ、その全てを示すことは分量が膨大になりすぎ、また一部のみを示すことは出題の趣旨をかえって誤って理解させるものとなるため、一意の解答例は公表を避ける代わりに、キーワードや採点時に重視した観点を解説する。また、下記の解答例から離れた内容の解答であっても、問題文に即して内容が的確であれば適宜評価するものとした。

【解答例（採点時の観点）】

- (1) 1970 年代には搭乗型巨大ロボットをフィーチャーしたテレビアニメの嚆矢である『マジンガー Z』にて主人公のガールフレンドであるヒロインが頻繁に女性型ロボット搭乗するも戦闘のサポート役がメインであったこと、同年代のロボットアニメが主に男児をターゲットとし、ロボット等の玩具を商品展開するスポンサーによって成立していたこと、1980 年代には女性主人公がロボットに搭乗して活躍する作品として『機動警察パトレイバー』や『トップをねらえ！』が現れていること、両作品が主に青年以上のアニメファン向けに作られる OVA としてリリースされていること、70 年代までの女性パイロットは紅一点であることが多く、博士の娘などの設定が多く見られたが、次第に 1 作品の中に複数の女性パイロットが現われるようになり、各人が明確な役割を持つようになること、1990 年代には少女向けテレビアニメ『魔法騎士レイアース』にて 3 人の女性主人公たちがロボットに搭乗して活躍することなどを記しつつ、アニメの年代やターゲット層、収益モデルなど複数の観点から、歴史的ナラティブを構築する論述のしかたができているかを評価した。
- (2) 『天才バカボン』に登場するおまわりさんや『がきデカ』の「こまわり君」などギャグ作品の中で威嚇射撃や警察権力を濫用するような過激な言動を繰り広げる事例、『こちら葛飾区亀有公園前派出所』の「両津勘吉」のように問題行動を起こしつつも人情味を持つ事例、『ルパン三世』の「銭形警部」や『キャッツ・アイ』の「内海俊夫」など怪盗を主役とする作品にてその主役を追いかけつつも一歩およばないライバル役となる事例、『名探偵コナン』の「目暮警部」や『金田一少年の事件簿』の「剣持警部」など探偵を主役とする作品にてその探偵より推理力は劣りつつも有力なサポート役となる事例、『機動警察パトレイバー』の「特車二課第二小隊」や『攻殻機動隊』の「公安 9 課」、『秘密ー トップ・シークレットー』の「科学警察研究所法医第九研究室（第九）」など近未来の架空の警察／公安組織のメンバーとして新種の犯罪に特殊な技術や装備で立ち向かう事例、『逮捕しちゃうぞ』や『ハコヅメ～交番女子の逆襲～』などにおける作品の主役として活躍する女性警察官の事例などを、それぞれの作品の年代とともに記しつつ、複数の作品にまたがる類型や、時代ごとの描かれ方の傾向を示しつつ、そこに説得力あるナラティブを構築する論述のしかたができているかを評価した。

可否判定の方法及び基準

入学試験は国際日本学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

可否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により可否を判断しております。